

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名 ：一般国道55号 牟岐バイパス <small>とくしまけんかいふくぐんむぎちようがわたくし</small>	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 四国地方整備局			
起終点 ：自：徳島県海部郡牟岐町川長 至：徳島県海部郡牟岐町中村 <small>とくしまけんかいふくぐんむぎちようなかむら</small>	延長 ：2.4km				
事業概要 ： <p>一般国道55号は、徳島県徳島市を起点として、小松島市、阿南市、美波町、室戸市などを經由し、高知市に至る全長約228kmの主要幹線道路であり、産業・経済の交流を支える大動脈であるとともに、通勤・通学等の地域住民の日常生活に欠かせない生活道路としての役割を持つ重要な道路である。</p> <p>当該事業は、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定区域を回避し、緊急輸送道路の機能を確保することで、安全性・信頼性の高い広域道路ネットワークの構造を目的とした道路である。</p> <p>また、災害拠点病院（県立海部病院）の高台移転、避難広場（面積：2,300㎡、避難想定人数：約910人）の整備など地域の防災まちづくりと一体となった整備により、地域の津波・地震対策を支援する道路でもある。</p>					
H16年度事業化	H一年度都市計画決定	H24年度用地着手	H25年度工事着手		
全体事業費	81億円	事業進捗率	約34%	供用済延長	0.0km
地域の防災面の課題 ： <ul style="list-style-type: none"> 徳島県が指定した津波被害警戒区域の指定（H26.3.31）によると牟岐町市街地は津波により浸水すると想定され、被災時の避難路や緊急輸送路となるべき国道55号が津波で浸水する。 このため、津波に伴う通行止めにより、甚大な経済被害が生じると予測されており、地域の喫緊の課題となっている。 					
課題を踏まえた対策・事業内容 ： <ul style="list-style-type: none"> 津波浸水区間を解消するために、2.4km区間をバイパス整備とした。 津波浸水区間の嵩上げを現道対策で行う場合、沿線乗り入れが不可能になり、さらに市街地の家屋移転に莫大な費用と時間がかかるためバイパスとした。 					
事業の効果等 ： <ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水想定区域を回避 緊急輸送道路として、災害時の救急活動や救援物資の搬送などを支援 走行時間の短縮等（44億円（残事業＝44億円）） 南海トラフ巨大地震発生時の津波等による通行被害の回避（10.5億円） 南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水区間住民の避難支援（18.7億円） 			費用 ： <p style="text-align: center;">（残事業） / （事業全体）</p> <p style="text-align: center;">50 / 79億円</p> <p style="text-align: center;">事業費： 45 / 74億円</p> <p style="text-align: center;">維持管理費： 5.1 / 5.1億円</p>		
関係する地方公共団体等の意見 ： <p>地域から頂いた主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> 徳島県、徳島県議会四国横断自動車道・阿南安芸自動車道建設促進議員連盟、徳島県議会徳島自動車道整備促進議員連盟、国道55号バイパス建設促進県議会議員協議会から本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。 <p>徳島県知事の意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> 「牟岐バイパス」の事業を継続するという「対応方針（案）」については、異議ありません。 <p>県南地域においては、「南海トラフ巨大地震」による津波で、唯一の幹線道路である一般国道55号が寸断され、地域の孤立が危惧されております。</p> <p>津波回避バイパスとなる「牟岐バイパス」は、地震発生時の緊急輸送道路の確保や救急医療施設への搬送時間の短縮に資する「命の道」として、また、牟岐町市街地での線形不良・狭隘区間解消による安全性の確保や交通混雑の緩和を図るうえで必要不可欠な道路です。</p> <p>また、「牟岐バイパスの整備」とともに「県立海部病院の高台移転」や「避難広場の整備」など、県南地域の新たな防災拠点づくりに、国、県、町が連携して、鋭意取り組んでいるところであります。</p> <p>このため、引き続き、コスト縮減を推進し、早期供用に向け、事業の着実な実施をお願いします。</p>					

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成19年 5月 日和佐道路（由岐IC～美波町北河内間：L=6.2km）開通
- ・平成23年 7月 日和佐道路（阿南市福井町小野～由岐IC間：L=3.1km）開通（日和佐道路全線開通）
- ・平成24年 8月 県立海部病院の高台移転用地決定（牟岐バイパス沿線）
- ・平成25年11月 阿南道路（阿南市津乃峰町西分～橋町大浦間：L=1.7km）開通
- ・平成27年 3月 四国横断自動車道（徳島～鳴門JCT間：L=10.9km）開通
- ・平成28年 3月 「四国広域道路啓開計画」が策定され、国道55号が進出ルートに指定

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成28年3月末で用地取得率約56%、平成28年3月末で事業進捗率約34%
- 残事業の内容（関トンネルL=175m 関高架橋L=142m 等）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・引き続き、早期供用に向けて事業を進める

施設の構造や工法の変更等

- ・津波浸水を回避するための道路縦断計画高の嵩上げ案を採用。
- ・縦断計画の変更の際し、大規模な地盤改良が必要となる盛土構造から橋梁構造案へ変更。
- ・トンネル断面を見直しし、コスト削減。
- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

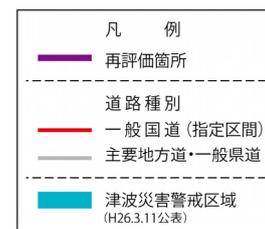
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 事業の効果等に記載してある金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※ 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。